

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和4年5月30日 第13号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50%; height: 15px; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ                      金子 てるよし
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

## 請願理由

農薬は、主成分と補助剤から構成されています。日本の農薬の安全審査は、主成分から残留基準値を決めており、補助剤の毒性は考慮されていません。国の安全審査は、農薬メーカーが主成分で行った実験データを書類を見て評価するだけで、国が追試をして安全性を確認する作業は行われていません。

除草剤ラウンドアップは、主成分グリホサートだけでは草が枯れないため、毒性の高い補助剤が添加されています。補助剤の成分は企業秘密のため不明ですが、フランスのカーン大学セラリーニ教授の研究で、補助剤の毒性は主成分の 1000 倍以上であることや危険なヒ素などの重金属が含まれていることが指摘されています。補助剤の強毒性のみならず、グリホサート単独の有害性を指摘する研究もあります。2019 年、英科学誌「サイエンティフィック・リポート」に掲載された Deepika Kubsad 氏らの研究によれば、ラットに EU の無毒性量の半分 (25mg/kg/日) のグリホサートを摂取させた場合、親と子には異常がなくても、孫やひ孫の世代で腫瘍や生殖機能不全の障害が出たことが発表されています。世代を超えた影響は、私たちの子孫にまで影響を与えてしまう可能性があるのです。それにもかかわらず、上記のような最新の研究論文は、日本の農薬の安全審査では考慮されていません。

ラウンドアップの毒性は、以前より高くなっています。ラウンドアップを使い続けると、ラウンドアップに耐性を持つ「スーパー雑草」が出現します。「スーパー雑草」を枯らすために、ラウンドアップに除草剤のジカンバや 2,4-D を混ぜて毒性を高めた製品も増えています。農水省の検査では、アメリカ産小麦の一部からジカンバや 2,4-D が検出されています。除草剤ジカンバは、肝臓がんや肝内胆管がん、急性/慢性リンパ性白血病などの発症リスクを高めると指摘されています。除草剤 2,4-D はベトナム戦争の枯葉剤の成分です。

農水省の検査では、アメリカ産小麦 97%、カナダ産小麦 100% からグリホサートが検出されています。輸入小麦を使用する学校給食のパンは、グリホサートが検出される可能性が高いです。子ども達を守るために、予防原則に基づいて輸入小麦の使用は止めてください。輸入小麦を使用し続けるのであれば、主成分から算出した国の基準値ではなく、補助剤の強毒性を考慮し、最新の科学的知見を取り入れて独自の安全基準値を定めてください。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 子ども達の命と健康を守るため、予防原則に基づき、グリホサート残留の可能性が高い輸入小麦は学校給食での使用をやめて、国産小麦または米飯にするよう、区に求めること。
- 2 国が安全とする基準値は主成分から算出されており、実際に食品に残留しているラウンドアップの毒性とは 1000 倍以上違う可能性があるため、輸入小麦を使用するのであれば、現実に即した独自の安全基準値を定めるように都教育委員会に求めること。
- 3 保護者や子どもが学校給食でのグリホサート残留数値をいつでも調べられるように、定期的な検査の実施と東京都学校給食会ホームページ上での検査データの公開を都教育委員会に求めること。